

2015国際教養科 NEWS 1月

卒論プレゼンテーションコンテスト表彰式(1/14)

国際教養科2年の comLL 演習の授業では、10月から卒業論文作成に取りかかりました。

【西高国際教養科のプレゼンテーションが目指すもの】

- 1) 己を知る。得意分野のみならず、自分が熱中できる世界を探る。研究に値する究極の課題を見つける。
- 2) 聞き手にとって、有益なことに結びつける。日本社会あるいは国際社会に貢献できる内容とする。
- 3) 自己にとって価値あるものへと昇華させる。今後の生き方、人生に活かせるような研究とする。

テーマは、多岐にわたっており、学びが多く大変興味深いものばかりでした。ほとんどの生徒が、アイコンタクト、ジェスチャーを駆使し、工夫されたパワーポイントや写真や図などを使いながら自らが選んだトピックについて熱意を伝えていました。今回とても評価した点は、聴衆に問いかけたり挙手をさせたりと、聞き手をプレゼンテーションに引き込む工夫がされていた点です。

最終発表者に選ばれたのは7名です。以下が生徒たちのテーマです。

Finalists' topics

What is the relationship between food culture and religion?	食文化と宗教の関係性は？
I am a lucky one	私は幸せ者
When you are nervous...	あなたが緊張したとき...
Chewing	噛む力
What should we do about energy liberalization?	電力自由化で私たちはどうすべきか？
Messages from "Spirited Away"	「千と千尋の神隠し」からのメッセージ
Our personality	個性

英語で8分も話し続けるのは、容易ではなかったと思いますが、全員成し遂げました。この経験は必ず将来役に立つでしょう。Good job!!



国際教養科2年 高大連携特別授業②(1/15)

本校卒業生の信州大学教育学部 小池浩子先生に、国際教養科2年生を対象に「異文化間コミュニケーション」というテーマで授業を行っていただきました。今回は、国際人として必要な能力について考えました。



異文化を理解する上で大事なことは知・情・為であることがわかり、自分たちが考えて出したアイデアに情が欠けているということを確認することができた。知識や行為だけでは異文化を理解したことにはならないということはこの授業で学ぶことができたと思う。

授業を聴いて1番感じたのは、異文化を理解して分かり合うということには多くのハードルがあるんだということでした。自分の生まれた国や地域で育てば、その場所での固定観念や常識は当然生まれるし、受け入れることが難しいことが多くあるんだなと思いました。だから、異文化理解では、まず広い視野をもって、独自の文化を尊重することが必要不可欠だと思います。自分の中だけの常識にとらわれて、異文化に住む人々を否定することがないようにしたいです。

国際人としての在り方として、自分はまだまだかなと思いました。頭ではわかっているつもりでも実際、「違い」に会うと、えっ？って思ってしまう。相手の事情も知らずに、自分の中で自己完結して、相手は違うからおかしいと思ってしまうと対立が生まれてしまいます。「情動」を主に意識して、相手を受け入れられる寛大な心を持てる人間になりたいと思います。

中国高校生との交流(1/27)

中国山西省大同市第一中学の生徒（高校生・中学生）22名が通訳の方を伴い、本校を訪問しました。授業では、国際教養科生徒の1・2年が交流しました。

1年の英語の授業では、歓迎セレモニーから授業交流まで、国際教養科系の生徒が中心に企画・運営を行いました。中国から来ている留学生が通訳を務め、日本語・英語・中国語で交流が行われました。授業交流では、自己紹介から始まり、生徒が作成した英語のすごろく使って楽しみながら交流をしました。

内容	活動等	備考
I 歓迎セレモニー	(1) 歓迎の挨拶 (長野西高校学校長) (2) 訪日旅行団代表挨拶 (3) 歓迎の挨拶 (生徒代表) (4) 訪日旅行団生徒代表挨拶 (5) 記念品交換	国際教養科1年
II 第4時限(授業交流)	・西高紹介(校歌) ・小グループで自己紹介、ゲームなど	国際教養科1年
III 第5時限(授業交流)	英語理解の授業体験	国際教養科2年



中国山西省大同市第一中学の生徒と国際教養科1年生



歓迎セレモニーの様子



国際教養系の生徒と留学生がセレモニーを進行



すごろくで交流

2年生の英語の授業では、「英語理解」で普段行っている授業を一緒に体験してもらいました。教科書を音読したり、ペアでワークシートに取り組んだりしました。授業の後半では、お互いのことを知るための質問シートを用いて、学校生活について話しました。中国の生徒達の中には6:40に授業が始まり、18:00に終了すると話している生徒がおり、本校生徒は大変驚いていました。中国山西省大同市第一中学の生徒の皆さんはとてもフレンドリーで、お互いに親交が深まったようです。



ペアワークの様子



中国山西省大同市第一中学の生徒と国際教養科2年生